

1) テーマ：「地域で暮らす生活者を理解するための地域・在宅看護論授業の工夫」

～フィールドワーク授業への取り組みについて～

2) カテゴリー：③教育方法（授業）

3) 学校概要：学校名：岡崎市立看護専門学校 所在地：愛知県岡崎市伊賀町字西郷中 104 番地

課程名：3年課程 1学年定員：40名 修業年限：3年



授業のねらい

本校は、西三河南部東医療圏における地域住民の生活に寄り添いながら医療ニーズに対応できる質の高い人材の育成を責務とし、感性をキーワードに創造的・発展的に地域の保健・医療・福祉に貢献する専門職業人の育成を目指している。

令和4年4月からの新カリキュラムでは、地域で生活する様々な健康レベルにある人を理解し、その人らしく生活するための看護が求められており、住み慣れた地域で暮らす人を基盤にした授業が重要となっている。そのため、6月に1年生を対象に地域・在宅看護論概論Ⅰの授業で、初めてフィールドワーク（学校周辺の地域探索および地域住民へのインタビューの実施）を取り入れた。学校周辺に学生が赴き地域住民の方々と関わりを持つことや地域の特性を知ることは、地域の健康課題を考える機会となるだけでなく、将来、岡崎市を中心とした地域に貢献できる看護師を育成する上でも必要不可欠と考える。この学びを7月に初めての臨地実習となる地域包括支援センター（市内7カ所に分散）での実習に活かし、各実習先でもフィールドワークを実施することで、継続的かつ発展的な地域・在宅看護の学びができるような教育内容を予定している。

具体的な授業内容は、以下の通りである。

1 授業：地域・在宅看護論概論Ⅰ 単元「地域で暮らす生活者の理解」

～住み慣れた地域で高齢者が安全に安心した生活を送るための健康課題を考える～

2 場所：学校周辺地域

3 対象：1年生42名

4 目的：住み慣れた地域で高齢者が安全・安心した生活を送るための支援について学ぶ。

5 目標：1) 地域の特性を知ることができる。 2) 地域で暮らす人々の対象について知る。

3) 地域の生活環境が対象の健康に及ぼす影響を考える。

6 方法：対象者は学校所在地に居住する高齢者と設定し、対象者が生活の中で必要と思われる場所を目的地として、その周辺の生活環境を徒歩で探索し、途中で出会った地域住民へのインタビューも実施する。

《実施後、学生からの感想》

- ・サイクリングや運動をしている人もおり、暑くても案外、健康に気を遣っている人が多くいたことに驚いた。
- ・実際に歩くことで、地図を見るだけではわからなかった選挙の看板やゴミ収集所、雰囲気、街並みなどを知ることができた。
- ・坂や段差、道幅など生活する上で大変だなと思う場所があった。
- ・初めて出会う地域住民へのインタビューに不安があったが、快く受けて下さるばかりでとても嬉しかった。



～徳川家ゆかりの伊賀八幡宮にて～

《教員の所感》

- ・学生の表情がイキイキしており、体験を通して学ぶ価値は大きく、感性の育みへの一助になる。
- ・暑い中、地域住民の方々にインタビューのご協力をいただき、看護師への関心の高さを実感できた。
- ・学生の体調に配慮した実施時期の検討が必要である。

出発です！



蓮の花を観賞中です

